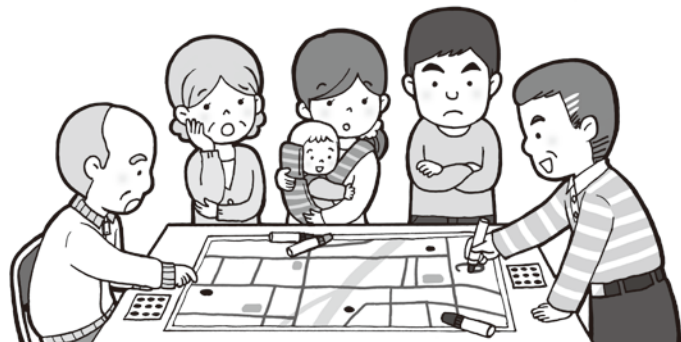


地域で行う 防災訓練の やり方!!



岡山県は温暖な気候で暮らしやすいと言われてきましたが、近年の地球的規模の気候変動の影響で、豪雨や台風による風水害の被害が県内各地で起こっています。

平常時に何を行ってれば、いざという時に落ち着いて行動ができるのでしょうか。

まず、自分の住む地域を知る、起こりうる災害を知る、そして、もしもの場合の備えが大切です。

防災力を高めるためにまち歩き、DIG、HUGの取り組みを行ってみましょう。

☑️ 風水害の備え

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市町村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 警戒が必要な地域では、いつでも避難できるよう準備する。

☑️ 地震の備え

- 我が家の耐震、地域の危険箇所を知っておく。
- ご近所同士顔なじみになっておく。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 家族と連絡の取り方を決めておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 家具の転倒防止をしておく。
- 発災後は正しい情報をラジオから得る。

災害から地域を守るために、みんなでやってみましょう! ➡



1 「まち歩き」をして防災マップを作ってみよう！

■ 準備するモノ

- ・地域の地図(A3・A0)
- ・調べるチェックシート
- ・カメラ
- ・筆記用具
- ・画版
- ・付箋

■ 調べるチェックシート

◎ 安全な場所

- ・指定避難所
- ・避難できそうな場所
- ・消火栓
- ・広い駐車場
- ・公園 など

★ 災害時に役立つ場所

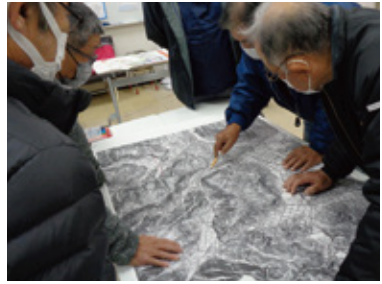
- ・消火栓
- ・消火器
- ・防火水槽
- ・井戸
- ・消防機庫
- ・公衆電話
- ・公衆便所
- ・病院
- ・薬局
- ・ホームセンター
- ・コンビニ
- ・スーパー
- ・掲示板など

⚠️ 危険な場所

- ・狭い道
- ・行き止まり
- ・水路
- ・危険な斜面
- ・ブロック塀
- ・瓦屋根
- ・大きな看板など

■ やり方

1. A3サイズの地図をもって、防災の視点で地域を歩く。(参加人数目安:5人~10人)
2. 地域内の危険な場所や役立つモノを見つけ地図に記入する。
3. 見つけたモノを写真に撮る。
4. まち歩きを終えて、作業する会場で大きい地図(A0サイズ)を囲み、見つけた消火栓や井戸など地図上に記入する。
5. 道路や線路、用水、ため池などを塗りつぶす。
6. 地図の周りに撮った写真を貼る。



- 普段なにげなく歩いている場所が、防災の視点で歩くことで、地域の強み弱みが発見できる。
- 災害時に役立つ商店や企業を見つけ、連携を結ぶことに繋げる。
- 災害時に力になってくれる人や手助けが必要な人なども話し合う。

防災ピクトの例		指定避難所		病院		防災無線		危険箇所		交番
		避難できそうな場所・集会所		役に立つ施設		水路		危険区域		公衆電話
		空き地		消火栓		防火水槽		土嚢置き場		ガソリンスタンド
		駐車場		ホース格納庫		消防機庫		ゴミステーション		
		公園		消火器		防災倉庫		掲示板		



例(東川面地区 防災マップ)



例(西川面地区 防災マップ)



ワンポイントアドバイス

実際の避難は、夜間や悪天候時になることがあります。まち歩きでは、避難場所まで安全に歩いて行けるか経路を確認してみましょう。

2 DIG(災害図上訓練)で防災力を高めよう!

DIG(災害図上訓練)とは…

Disaster(災害)Imagination(想像)Game(ゲーム)の頭文字を取って名づけられたものです。大きな地図を囲みながら、地域の想定された災害の種類や被害の状況、避難経路を地図上に書き込み、地域の災害に対する強さ・弱さを知り、災害時の具体的な行動をイメージすることができます。また、地域で頼りになる人は?手助けが必要な人は?災害時の対応や日ごろからしておくべき対策にも気づきます。

■ 準備するモノ

- ・地域の地図(A0)
- ・透明シート
- ・油性ペン
- ・ベンジンか液体消炎鎮痛剤
- ・被害想定 の準備

■ 地図への書き込み

公園、神社仏閣、 広い駐車場など	→	薄い緑
鉄道	→	黒色
河川・水路等の 水利施設	→	水色
指定避難所	→	緑色
道路	→	茶色
医院・診療所 薬局	→	紫
緊急時に物資が 購入できそうな店	→	ピンク

■ やり方

1. 風水害の場合や地震の場合など災害の種類を決定し、被害状況を想定する。
2. 地図上に透明シートを載せる。
3. 油性マジックを使用して、透明シートの上に風水害の場合は浸水範囲や土砂災害の危険箇所などハザードマップを参考に記入する。
4. 書き間違えをした場合はベンジンや液体消炎鎮痛剤で消去して、書き直しをする。
5. 参加者がそれぞれ自宅から避難ルートを記入しながら、避難経路を確認する。
6. 「避難した避難場所が安全かどうかどのようにして確かめるか」、「どのように正しい情報を得るか」を話し合う。
7. 「避難所にまだ来ていない人がいる時、どのようにして確認をするか」を話し合う。
8. 「避難場所が安全であることが分かった後、避難所での役割分担をどうするか」を考える。



ワンポイント アドバイス

近隣住民同士の声かけが避難行動を起こす理由になっています。

逃げ遅れにならないために何をすべきか、考えておきましょう。



透明シートの上に避難経路を書きます。何度も消せるので、どんどん書き込みましょう。



倒壊する恐れのある建物などを回避して、幾通りかの避難経路を書いてみましょう。

3 HUG(避難所運営ゲーム)をやってみよう!

HUG(避難所運営ゲーム)とは…

災害時、被災した多くの人々が長期にわたり自宅等から避難所への避難を余儀なくされ、避難所では大きな混乱が生じることが想定されます。HUGは、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。地震で避難所に訪れた避難者を想定しており、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

■ 準備するモノ

- ・HUGのカードセット
- ・避難所(小学校など)の校舎と体育館の平面図
- ・油性ペン
- ・付箋
- ・ベンジンか液体消炎鎮痛剤

■ HUGの目的

- 避難所を模擬体験することにより、事前に何をすべきか、何を考えておくべきかを体験できます。
- 緊急性のある事象を処理しなければならないことを理解し、対応力を身につけます。
- 合意を形成する訓練ができます。

■ やり方

1. カードを読み上げる人、進行役、書記、発表者を決めて始める。(途中で交代してもよい。)
2. カードは全部で250枚。世帯番号1から順番に読んで、体育館と校舎の図面に適宜配置をしていく。次々に避難者が来ることを想定しスピード感を持って進める。
3. 様々な問題を抱えた避難者がやってくる。緊急性を求められることもある。
4. イベントカードがあり、緊急性を求められる問題が次々発生するので、避難所運営本部としての様々な対応が求められる。
5. トイレはどうするか、ペットはどうするかなど判断に困ったことを、話し合う。



HUGのカード



美川小学校の平面図



ワンポイント アドバイス

地域の避難所の図面で行うとより臨場感があります。受付や掲示板の位置、避難者カードについても話し合みましょう。避難者の中には配慮が必要な人がいます。みんなにやさしい避難所を考えましょう。

矢掛町役場 総務防災課

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛3018 TEL: 0866-82-1010

岡山県備前県民局地域政策部地域づくり推進課「防災ワークショップ!!」を参考に作成